

博 多 28

—博多遺跡群第51次発掘調査報告—

福岡市埋蔵文化財調査報告書第283集

1992

福岡市教育委員会



Fig.1 調査地周辺航空写真 (昭和23年撮)



博多 28

—博多遺跡群第51次発掘調査報告—

福岡市埋蔵文化財調査報告書第283集



1992

福岡市教育委員会

序

福岡市はアジア大陸との、地理的な関係から、先史時代より東アジアとの文化交流の門戸として、発展を遂げてきました。このような歴史的背景により市内には各時代の文化財が数多く埋蔵されています。しかしながら、近年の都市の発展に伴う開発により、我々の祖先が地中に残した埋蔵文化財が消滅しつつあります。このため本市教育委員会では、遺跡を保存すべく各種の開発事業に先立って発掘調査を行い、記録保存によって後世に伝えるように努めています。今回報告します博多遺跡群の発掘調査報告書は、ビル建設工事に先立って実施した発掘調査の記録です。この調査では、古墳時代～中世にかけての博多の様相を知ると共に貴重な資料を得ることができました。

本報告書および資料が、学術研究だけに留まらず、市民各位の文化財に対する認識を深めるために寄与することを深く願うものです。

最後になりましたが、発掘調査にあたりまして調査費用を負担していただいた事業者の田代博子氏、ならびに関係各位に対し、深く感謝いたします。

平成4年1月13日

福岡市教育委員会

教育長 井口雄哉

例　　言

1. 本報告書は、福岡市教育委員会埋蔵文化財課が福岡市博多区祇園町154-1・2に所在する博多遺跡群を昭和63年6月19日～同年7月15日に発掘調査した記録である。
2. 遺跡名は福岡市教育委員会発行の文化財分布地図－中・南部－からによる。
3. 発掘調査は、福岡市教育委員会埋蔵文化財課が行い、同課職員の瀧本正志が担当した。
4. 本書で用いた方位は全て磁北で、真北より6°21'西偏する。
5. 本書に掲載した遺構・遺物の記録類および編集は瀧本が担当した。
6. 本書で報告した発掘調査にかかわる全ての遺物・記録類は、福岡市立埋蔵文化財センター（博多区井田2丁目）に収蔵されているので活用されたい。

遺跡名	博多遺跡群		
遺跡略号	HKT-51	調査番号	8925
調査地	福岡市博多区祇園町154-1・2		
調査期間	1989年（昭和63年）6月19日～7月15日		
開発面積	244m ²	調査面積	200m ²

本文目次

第1章 はじめに	1
1. 調査に至る経過	1
2. 調査の組織	1
第2章 遺跡の位置と歴史的環境	3
1. 遺跡の立地と歴史的環境	3
第3章 調査の記録	7
1. 調査の概要	7
2. 遺構と遺物	8
第4章 まとめ	24

挿図目次

Fig.1 調査地周辺航空写真（昭和23年頃）	見返し
Fig.2 遺跡位置図（縮尺1/200,000）	VI
Fig.3 遺跡群地形図（縮尺1/25,000）	2
Fig.4 調査地周辺地形図（縮尺1/1,000）	3
Fig.5 調査地点位置図（縮尺1/6,000）	4
Fig.6 調査区南西壁上層	5
Fig.7 調査区土層略図	6
Fig.8 第1面遺構配置図（縮尺1/30）	7
Fig.9 第1面遺構検出状況（北東から）	8
Fig.10 第1層出土遺物実測図（縮尺1/3）	9
Fig.11 第1層出土遺物	9
Fig.12 第2面遺構配置図（縮尺1/30）	10
Fig.13 第2面遺構検出状況（北東から）	11
Fig.14 第2面・第2層出土遺物実測図（縮尺1/3）	12
Fig.15 第2面・第2層出土遺物	12
Fig.16 第2層出土遺物	13
Fig.17 第2層出土遺物	13
Fig.18 第3面遺構配置図（縮尺1/30）	14
Fig.19 第3面遺構検出状況（北東から）	15
Fig.20 第3層出土遺物実測図（縮尺1/3）	16
Fig.21 第3面出土遺物	16
Fig.22 第3層出土遺物	17
Fig.23 第3層出土遺物	17
Fig.24 第3層出土遺物実測図（縮尺1/3）	17
Fig.25 第4面遺構配置図（縮尺1/30）	18

Fig.26 第4面出土遺物実測図（縮尺1/3）	19
Fig.27 第4面出土遺物	19
Fig.28 第4層出土遺物実測図（縮尺1/3、1/4）	20
Fig.29 第4層出土遺物	21
Fig.30 第5面遺構配置図（縮尺1/30）	22
Fig.31 第5面遺構検出状況（北東から）	23
Fig.32 第5面出土遺物実測図（縮尺1/3）	23
Fig.33 第6面遺構配置図（縮尺1/30）	24
Fig.34 第6面遺構検出状況（北東から）	25
Fig.35 第6面出土遺物実測図（縮尺1/3）	26
Fig.36 第6面・第6層出土遺物実測図（縮尺1/3）	26
Fig.37 第6面・第6層出土遺物	27
Fig.38 調査地周辺航空写真（昭和63年）	見返し

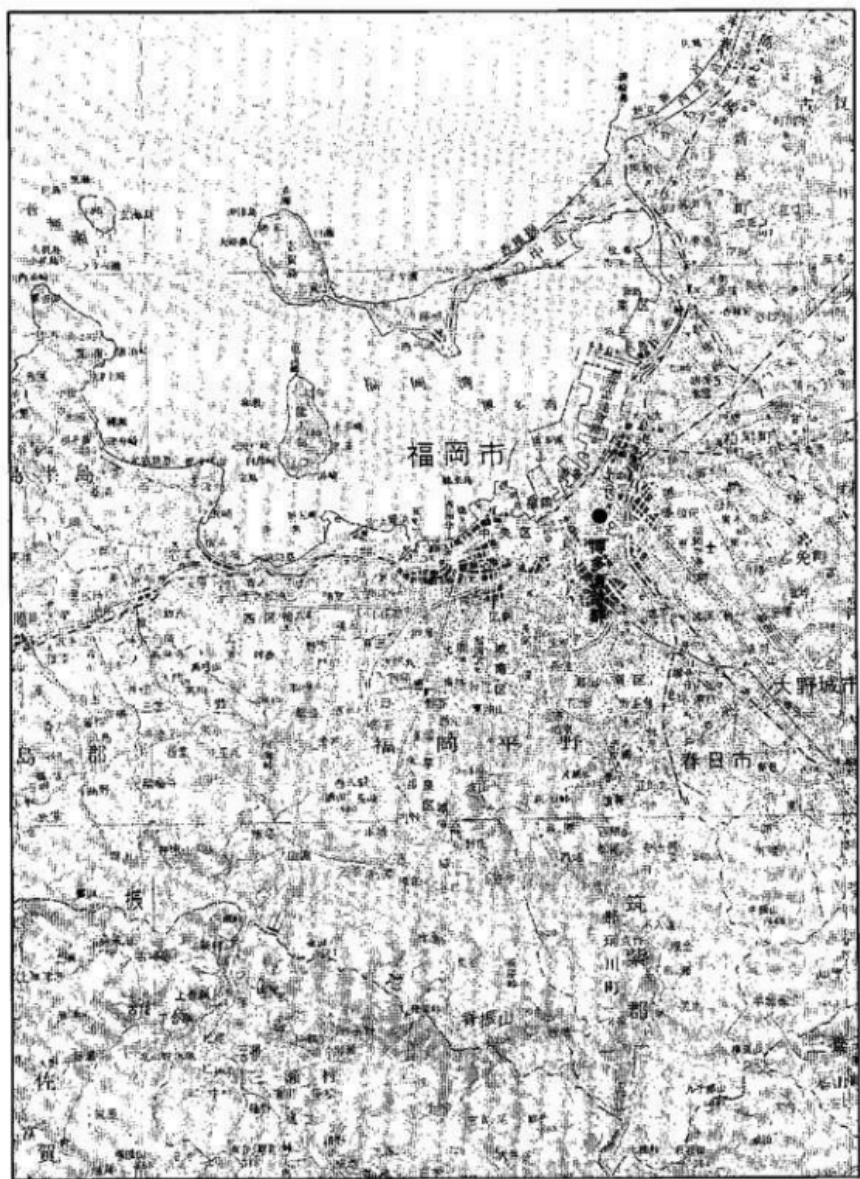


Fig. 2 遺跡位置図 (縮尺1/200,000)

第1章 はじめに

1. 発掘調査に至る経過

1989年2月7日付で、土地所有者の田代博子氏から、博多区祇園町154-1・2地内における共同住宅建設に伴う埋蔵文化財事前審査願いが教育委員会埋蔵文化財課に提出された。埋蔵文化財課では、本地が博多遺跡群の範囲にあり、かつ周辺地において古代～中世における造構・遺物が良好な状況で発掘されていることから、事前に造構の有無確認のために試掘調査を行うこととした。試掘調査は、土地所有者と協議のうえ、同年2月28日に実施した。試掘調査の結果、地表下1.4mまでは擾乱を受けてはいるものの、古墳時代～中世の柱穴・溝等の遺構が良好な状態で残存していることが判明した。この試掘結果をもとに土地所有者と協議を重ね、工事によって破壊される遺構については、記録保存のために発掘調査を行うこととなった。このため田代博子氏と福岡市との間で埋蔵文化財発掘調査の委託契約を締結し、その契約に基づき調査費用については土地所有者の田代博子氏が負担することとなり、発掘調査は埋蔵文化財課が実施することとなった。

2. 発掘調査の組織

調査委託 田代博子氏

調査主体 福岡市教育委員会文化部（現 文化財部）埋蔵文化財課

教育長 井口 雄哉（現任） 依藤 善郎（調査時）

埋蔵文化財課長 折尾 学（現任） 柳田 純孝（調査時）

調査担当 同課第1係 濑木 正志（現 文化財整備課）

事務担当 同課第1係 吉田真由美（現任） 松延 好文（調査時）

調査協力 相沢正文、当房翠子、当房真由美、石松晋、尾崎達也、尾崎八重、木下浩幸、

柳光雄、正崎由須子、典略初、仲川忠高、林嘉了、平本つた江、前川巧、

真名子ユキエ

資料整理 青柳恵子、飯山智子、池村留美、上田裕子、牛尾美保子、内山孝子、尾崎京子、斎藤美紀枝、藤アイ子、日名子節子、藤吉茅里、真名子順子、渡辺ちず子

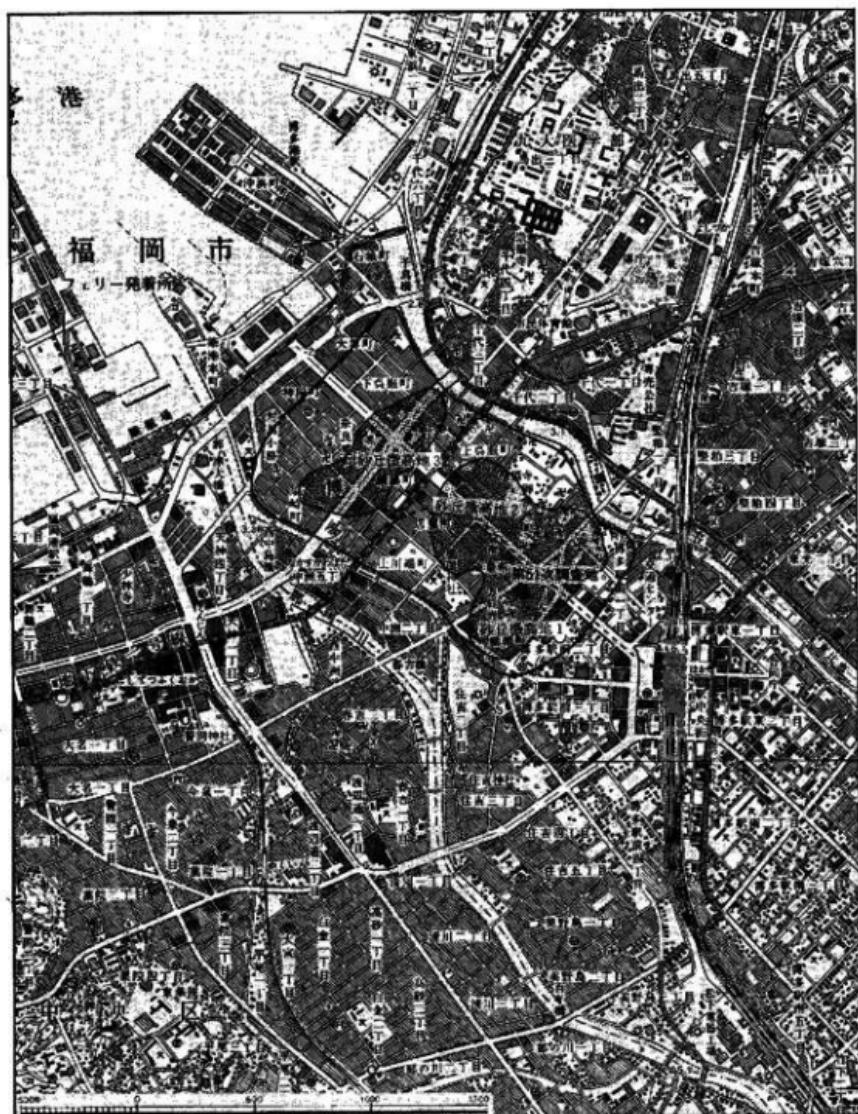


Fig. 3 遺跡群地形図（縮尺1/25,000）

第2章 遺跡の立地と概要

1. 遺跡の概要

博多遺跡群の発掘調査も既に70次を越え、それに従って報告書も数多く刊行されている。遺跡の立地と概要についても既刊の報告書に詳細に言及し尽くされているので、本書では既刊の報告書より抜粋する。

博多遺跡群とは、中世都市「博多」を中心として、弥生時代から近世、さらには現代へつながる複合遺跡の総称である。地理的には、福岡平野の博多湾岸に形成された砂丘上に位置し、西は博多川(那珂川)、東は江戸時代に開墾された石堂川、南は石堂川開墾以前に那珂川に向って西流していた旧比恵川によって両される。この地域に形成された砂丘は、博多湾に平行して、大きく3例にわかれれる。内陸側から砂丘I・砂丘II・砂丘IIIを仮称すると、砂丘IはFig. 1に示した町名では、祇園町からその北東にかけて、砂丘IIは上呉服町・店屋町・冷泉町、砂丘IIIは下呉服町・奈良屋町・綱場町にあたる。砂丘IIIは、中世以来「息の浜」「沖の浜」と呼ばれてきたものにあたる。これらの砂丘は、繩文海進以後に形成されたものである。博多遺跡群の発展は、巨視的には、砂丘Iから砂丘II・砂丘IIIへの拡大過程と言える。

博多遺跡群においては、1977年の高速鉄道（地下鉄）祇園町工区の調査を嚆矢とし、一連の地下鉄関係調査、都市計画道路博多駅築港線拡幅関係調査および、60次をこえる民間開発関係調査が行なわれている。その結果、弥生中期前半には、砂丘Iに堅穴住居址、甕棺墓などを営んでいたことが明らかとなった。ただし、土器片としては、板付II式土器、近海式焼棺片等が採集されており、遺跡の初源が弥生時代前期にまで遡る可能性もある。古墳時代では、堅穴住居址・方形周溝墓などが調査されている。

古墳時代前期には、遺跡は砂丘Iのはば全面にひろがり、位置部は砂丘IIにも進出している。

歴史時代にはいると、博多は対外貿易の拠点として、独自の発展をとげることになる。遣唐使の発着地であり、外国施設・商客の迎賓館であった大宰府鴻臚館は、博多遺跡群から入海ひとつを隔てた西の丘陵に設けられたものであった。博多遺跡群においても、銅特幣・石帶・須恵器硯・皇朝錢・鴻臚館式瓦・老司式瓦・墨書き忠器など律令官人の存在を示す遺物が出土するとともに、少なからざる量の越州窯系青磁・長沙窯系青磁・窯系白磁も出土しており、博多もまた鴻臚館とならんで交易の場と成っていたことを思わせる。奈良時代の遺構は、砂丘I・砂丘IIのはば全面で検出されている。平安時代後半には、博多には宋承認の居留がみられるようになり、これら在博多宋商人のもとで、中世都市「博多」が誕生することになる。こうして、最大の繁栄を迎えた中で、12世紀後半には、ついに砂丘III「息の浜」まで拡大するにいたる。

鎌倉時代の13世紀後半、2度にわたる元寇で、博多の町は焼かれ、また「息の浜」には防壁

が築かれるが、室町時代には、むしろ「息の濱」が博多の街の中心となってくる。1333年、「息の濱」は、諭旨行賞として、建武政権から大友貞宗に与えられた。その後、1348年には、室町幕府は博多を官領在所として指定する。九州の在地勢力を抑え、南朝勢力を圧倒したのは、1371年に九州探題として赴任した今川了俊であった。了俊が1395年に解任された後、深瀬となった波川満頼とその跡を襲った義俊父子は、1420年朝鮮使節を迎えるに当って、博多の道路を整備し門を作らせるなど市街整備を行なっている。ところが、九州探題による博多支配は長続きせず、1429年までに、「息の濱」は再び大友氏の領するところとなるのである。室町時代の「息の濱」は、勧合貿易で栄えた商人が屋敷を構え、繁栄した。しかし、戦禍をうけることも多く、戦国時代には、度々兵火にかかっている。1587年には、豊臣秀吉によって戦災からの復興がなされ、17世紀初めには、博多の内陸側の砂丘と「息の濱」とを隔てていた湿地が埋め立てられ、博多は近世都市として生まれかわるのである。¹

*①大庭康時著「博多17」福岡市埋蔵文化財発掘調査報告書第245集

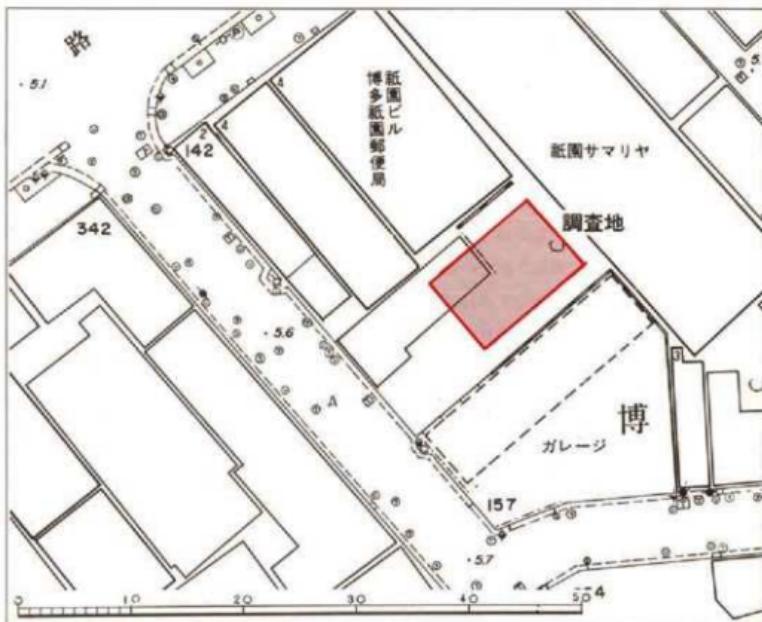


Fig. 4 調査地周辺地形図 (縮尺1/1,000)

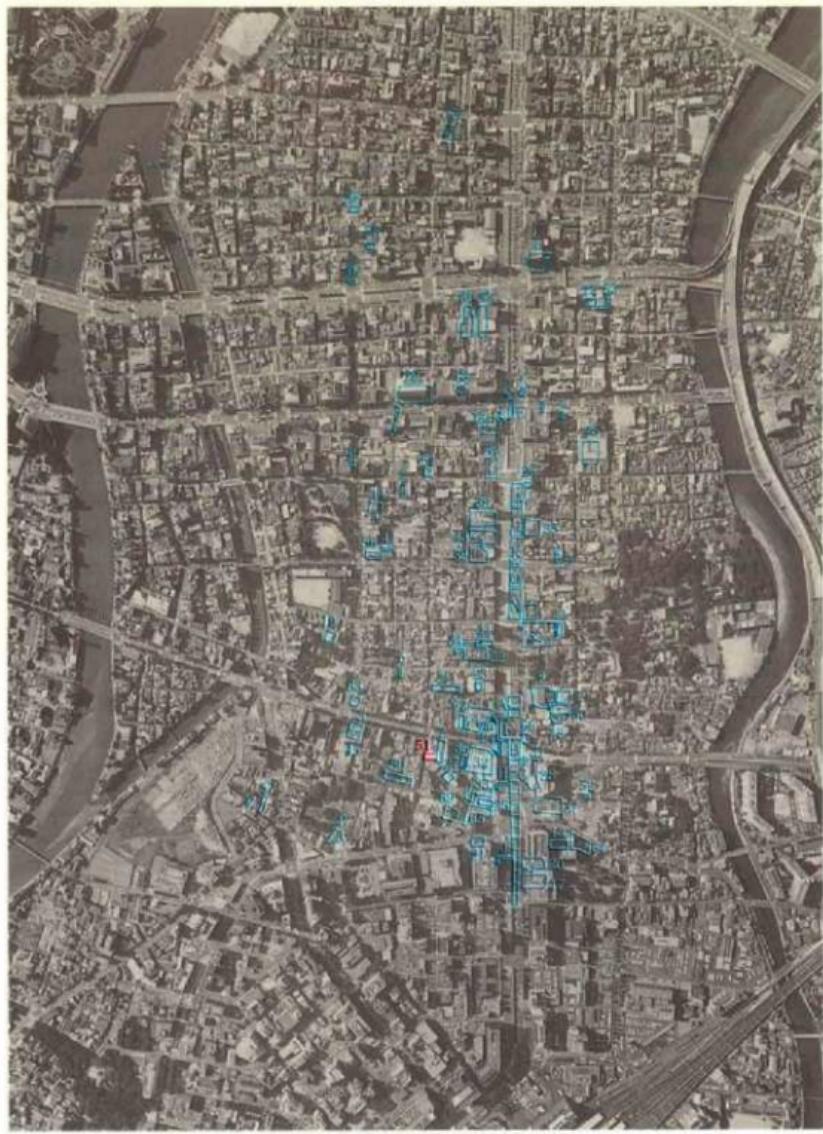


Fig. 5 調査地点位置図 (縮尺1/6,000)

第3章 調査の記録

1. 調査の概要

今回の調査では、古墳時代から中世にかけての遺構・遺物を検出した。遺構は土坑、柱穴、溝等を検出したが、調査区域の限界により、建物規模などを明らかにすることはできなかった。遺物は古墳時代初頭の土師器（甕）を最古に、中世までに至る土師器、須恵器、瓦器、磁器、石器、瓦が出土した。特に奈良時代の土器類は丁寧な調整が施されており、その特質は調査地近辺に官営施設の存在を強く示唆するものである。

調査地の土層は、Fig. 6・7 に示すように、上層から搅乱層、茶褐色砂質土、暗黒灰色砂質土、黒灰色砂質土、黒色砂、黒褐色砂、暗黄褐色砂、黃褐色砂（地山）となっている。各層はほぼ水平堆積をしめしているが、暗黄褐色砂層面から大きく西に傾斜する。この傾斜部分に暗褐色砂、黒褐色砂が堆積している。ちなみに、調査地面の標高は6.3mを測り、地山の古砂丘上面は標高3.3mを測る。

調査は搅乱層をバックフォーで除去した後、茶褐色砂質土層を第1層、暗黒灰色砂質土層上面を第1面とし、以下土層別ごとに遺構検出を実施した。調査区には現代の、大きく深い搅乱と試掘時の搅乱（トレンチ）が中央に位置しており、今後の調査においてはトレンチの入れ方に留意する必要がある。

2. 遺構と遺物

第1面（Fig. 8・9） 石敷遺構（SX）、溝（SD）、土坑（SK）、小穴（SP）等を検出した。
石敷遺構 SX101は調査区の西辺に位置する石敷遺構で、建物の基礎遺構と想定される。幅50~80cm、深さ20cm前後を呈する溝状の凹みに、拳大~人頭ほどの転石を敷き詰めている。

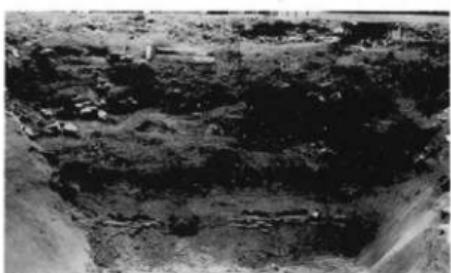


Fig. 6 調査区南西壁土層



Fig. 7 調査区土層略図

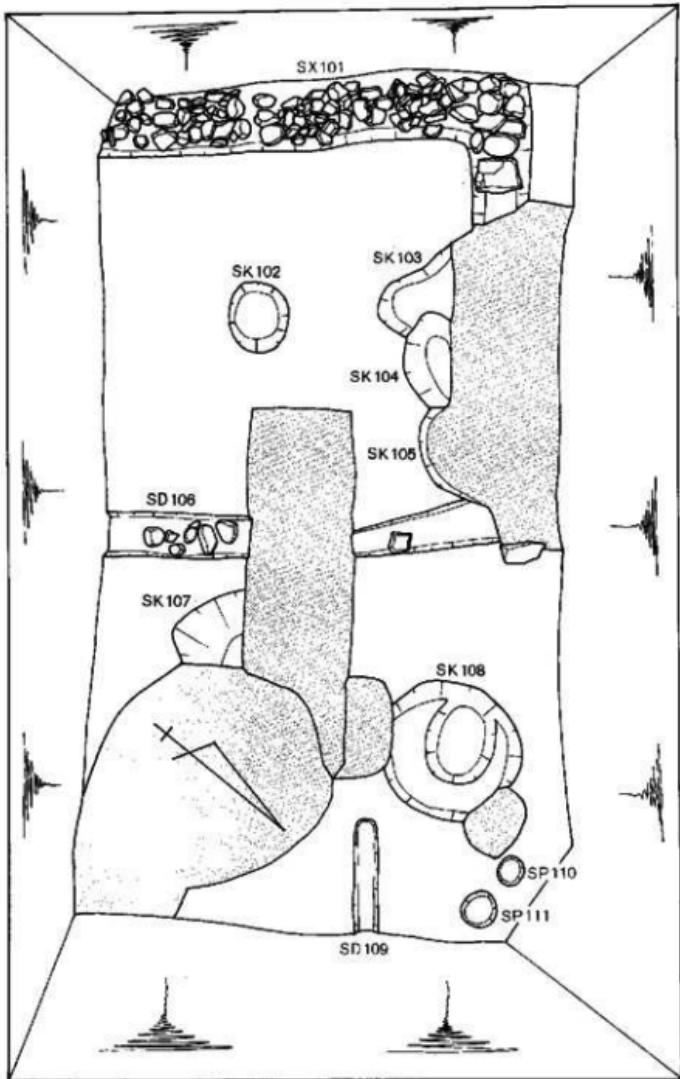


Fig. 8 第1面遺構配図 (縮尺: 1/30)

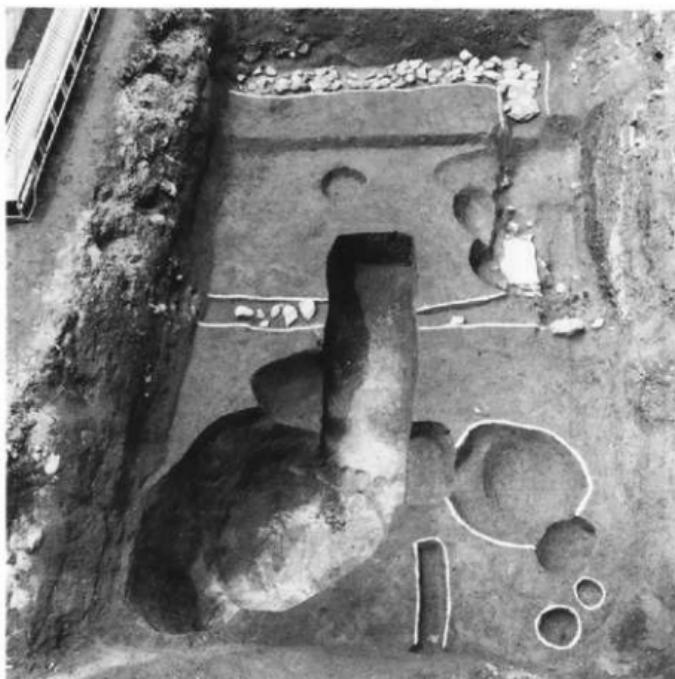


Fig. 9 第1面遺構検出状況（北東から）

石敷の南は調査区外に統き、北部分は調査区隅で東に直角に折れ曲がり、その先は削平されて不明である。

溝 SD106は調査区中央に位置し、南東から北西方向に連なる溝状遺構である。幅40cm・深さ10cmを測る。溝は調査区外にそれぞれ統く。覆土からは丸・平瓦、土師器(壺・皿)、須恵器(鉢)が出土している。SD109は調査区北東辺に位置し、南西から北東方向に連なる溝状遺構である。幅20cm・深さ10cmを測る。覆土からは土師器(壺・皿)が出土している。

土坑・小穴 SK102は径60cm・深さ20cmを測る。覆土からは平瓦、土師器(壺・皿)が出土している。SK103~105はSK102の北に位置する。橢円形を呈していたと思われるが、擾乱により全形は不明。SK107は調査区中央に位置するが、大半がトレンチにより欠く。深さ50cmを測る。覆土からは土師器(壺・皿)、瓦器(椀)が出土している。SK108は径1.4m・深さ40cmを測る。覆土からは平瓦が出土している。

第1層出土遺物 (Fig.10・11)

第1層の茶褐色砂質土層からは、須恵器（甕・壺）、土師器（壺・甕・皿）、瓦器（椀）、石器（石鍋）、青磁器（碗・皿・壺）、白磁器（碗）、丸・平瓦、が出土している。

1～4は土師器の皿で、口径は1が7cm、2～4が9cm、器高はいずれも1cm前後を測る。口縁は直線的に外反しながら立ち上がり、底部外面には糸切り痕が残る。1だけ胎土に1mmほどの長石石英砂粒を多く含む。5・6は土師器の壺。口縁は直線的に外反しながら立ち上がり、口縁端部は横ナデ調整により丸く仕上げている。5は口径12cm、底部径9cm、器高2.5cmを測る。6は口径15cm、底部径10cm、器高3cmを測る。青磁器は碗・皿・壺が出土している。碗の釉にはオリーブ色、灰緑色、青灰色がある。器面には備目描きの碗もいくつかみられる。7は青磁碗で、口径18cm、高台径7cm、器高6.5cmを測る。内面には笠工具により雲文が刻まれている。白磁器は碗が出土している。釉は灰黄色もしくは灰濁白色。口縁端部には折返しの玉縁がある。瓦器椀の体部は球状を呈し、底部外面には粘土紐の貼付高台がある。内外面とも丁寧な笠磨きが施されている。丸瓦は2種類がある。一方は、凸面が笠磨き、凹面には布目を残す。側縁には笠削り調整。他方の凸面が繩目叩きの後にナデ調整を施し、凹面には未調整で布目を残す。側縁には笠削り調整。平瓦は須恵質で硬質。桶巻作りによる。凸面を繩目叩きの後ナデ調整、凹面はナデ調整により布目を消す。側面には分割載線・分割破面を残し、側縁の笠削り調整は行なわれない。

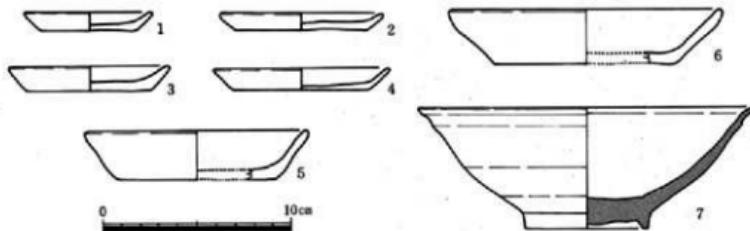


Fig.10 第1層出土遺物実測図 (縮尺1/3)



Fig.11 第1層出土遺物

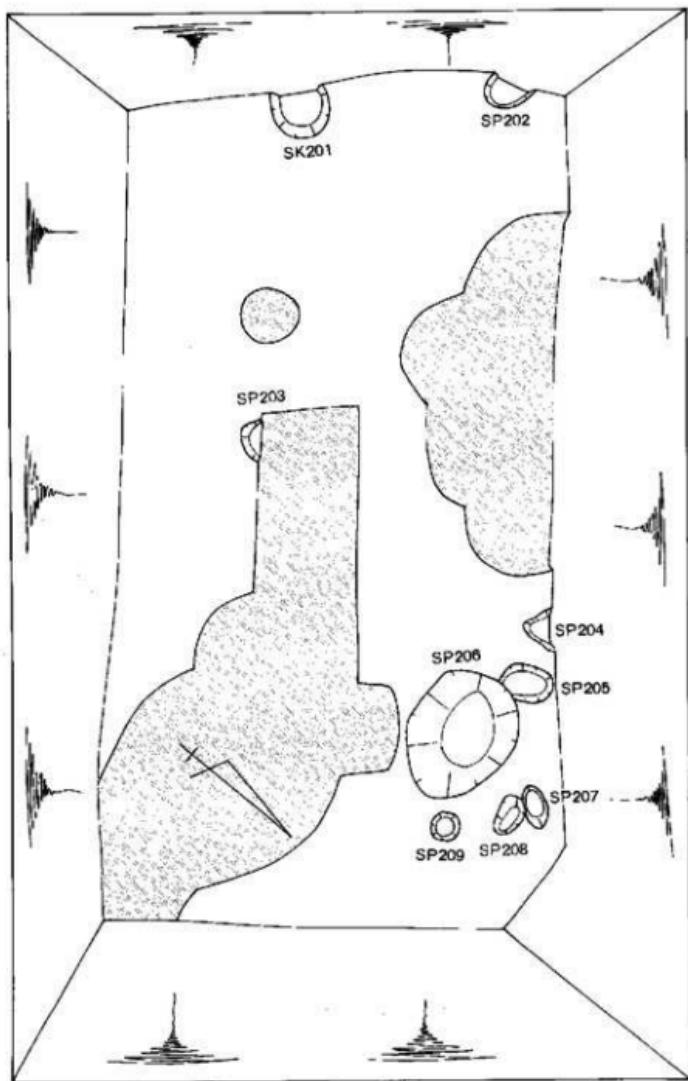


Fig.12 第2面構造配図 (縮尺1/30)



Fig.13 第2面造構検出状況（北東から）

第2面 (Fig.12~15) 土坑(SK)、小穴(SP)等を検出したが、建物規模は明らかではない。

土坑 SK206は調査区の中央に位置する。楕円形の平面形を呈し、長径1.4m、短径1.1m、深さ20cmを測る。壁は弧を描きながら緩やかに立ち上がる。覆土からは青磁(碗)、白磁(碗)が出土している。青磁碗は、釉が灰緑色、内外面に横目による施文。白磁碗は、口縁端部の釉が範により削り取られている。

小穴 SP203調査区中央に位置するが、北半部を欠く。径40cmを呈する。覆土からは土師器(甕・皿)、丸・平瓦が出土している。甕の口縁は短く直立する。内外面とも刷毛目による調整が施されている。8は皿で口径9cm、底部径6cm、器高1.5cmを測る。口縁はやや内湾ぎみに立上り、端部は丸く仕上げている。底部外面には糸切り痕跡が残る。丸瓦は、凹面に糸切り痕跡と布目が残る。凸面は笠磨。平瓦は、凹面に布目と糸切り痕跡があり、側面に分割破面が残ることから、粘土板桶巻作りであろう。凸面に繩叩き目が残るものもある。

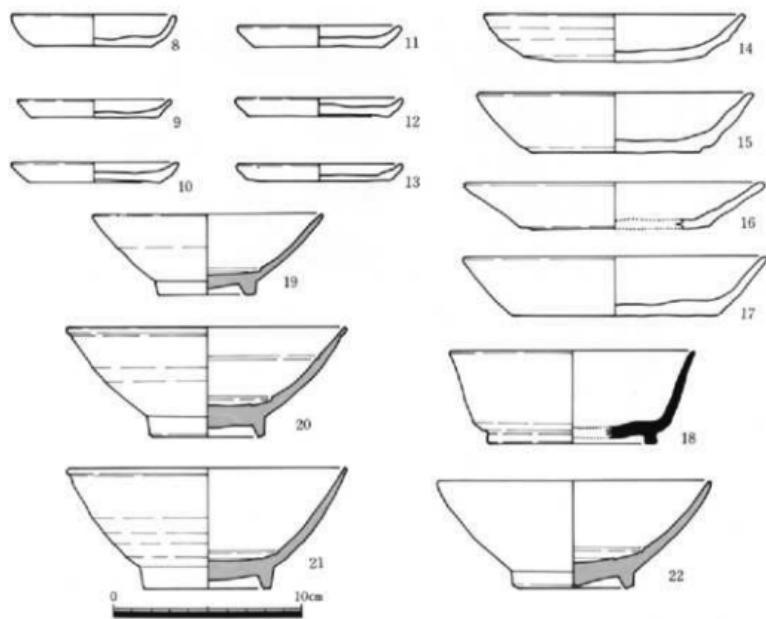


Fig.14 第2面・第2層出土遺物実測図（縮尺1/3）



Fig.15 第2面・第2層出土遺物

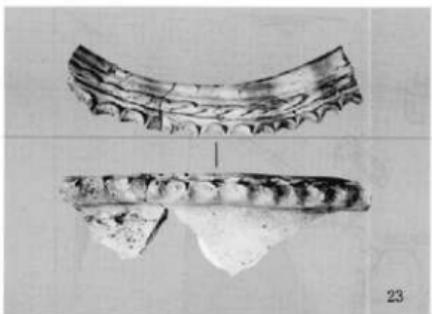


Fig.16 第2層出土遺物

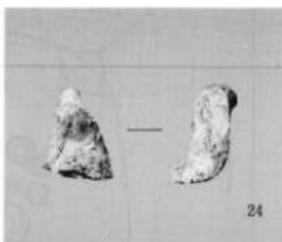


Fig.17 第2層出土遺物

第2層出土遺物 (Fig.14~17)

第2層の暗黒灰色砂質土層からは、須恵器（甕・环・搗鉢）、土師器（坏・甕・皿）、青磁器（碗・皿）、白磁器（碗）、瓦器（椀）、石器（石鍋）、軒平瓦、丸・平瓦、土製仏像が出土している。

9~13は土師器の皿で、9は口径8cm、10~13は9cm、器高はいずれも1cm前後を測る。口縁は直線的に外反しながら立ち上がる。底部外面には糸切り痕が残る。9は色調が灰色を呈し、底部外面には糸切り痕跡の他に板目压痕がこる。14~17は土師器の环である。14は口径14cm、器高2.5cmを測る。底部はやや丸味を呈し、外面には板目压痕が残る。15は口径15cm、器高3cmを測る。底部外面には板面压痕が残る。16~17は口径16cm、器高2.5~3cmを測る。16は他の环と比べて底部径と口径との差が大きい。18は須恵器の坏である。口径13cm、高台径9cmを測る。口縁は直線的に外反しながら立ち上がり、端部は丸い。胎土は0.5~1mm程の長石・石英をわずかに含む。色調は暗灰色を呈し、硬質である。高台は粘土紐の付け高台。青磁の碗は、大半が体下半露胎。釉はガラス質で、オリーブ色、灰緑色、青灰色である。一部の碗の器面には備描き文がある。19は口径13cm、高台径5cm、器高4.5cmを測る。体下半露胎。口縁は直線的に外反する。見込では輪状に削り取っている。胎土は白色。20は口径15cm、高台径6cm、器高6cmを測る。体下半露胎。口縁は直線的に外反する。見込では輪状に削り取っている。胎土は乳灰色。21は口径15cm、高台径7cm、器高6.5cmを測る。体下半露胎。口縁は直線的に外反する。見込では輪状に削り取っている。胎土は乳灰色。22は口径15cm、高台径7cm、器高6cmを測る。体下半露胎。口縁は直線的に外反する。見込では輪状に削り取っている。高台には「陳」の墨書がある。23は桶巻作りの軒平瓦で、瓦当の施文は平瓦が分割される前の段階で行なっている。額は粘土紐を端部に貼り付け、横ナデで整形している。24は土師質の土像の破片で、左肩部分と思われる。型作りの可能性がある。石鍋は石材が暗青灰色系と白色系との2種類ある。

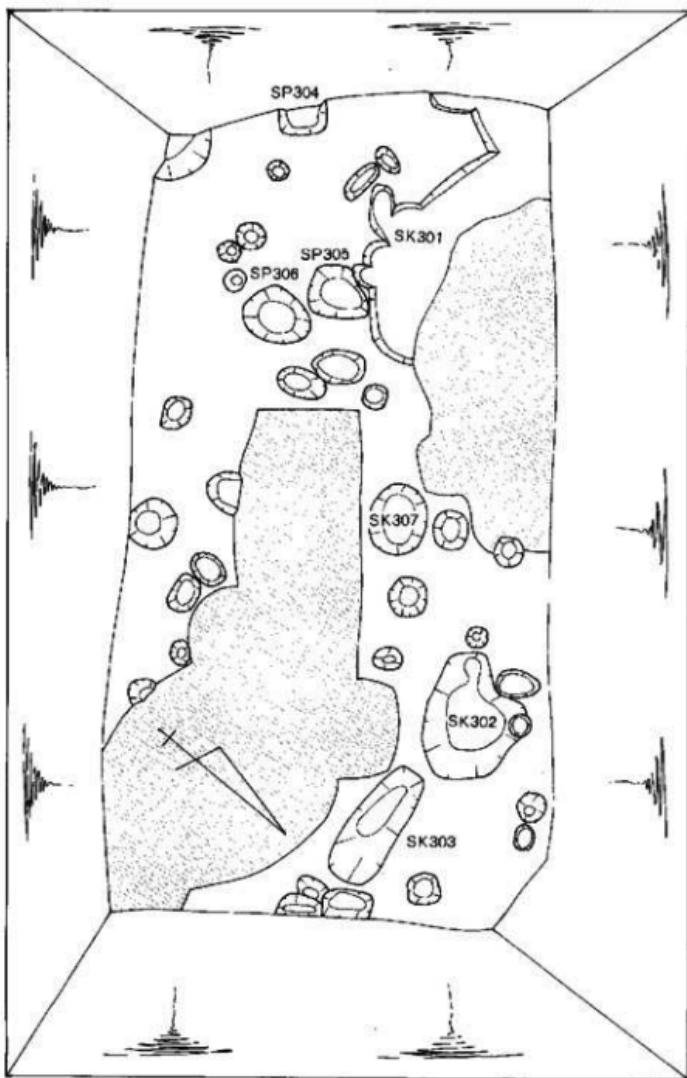


Fig.18 第3面遺構配置図 (縮尺1/30)



Fig.19 第3面遺構検出状況（北東から）

第3面 (Fig.18~21) 土坑 (SK)、小穴 (SP) 等を検出したが、建物規模は明らかではない。

土坑 SK301は調査区の西部に位置する。楕円形の平面形を呈するが、北半部に擾乱により不明。複数の土坑の集合体の可能性もある。壁は弧を描きながら緩やかに立ち上がる。覆土からは須恵器（甕・壺）、青磁（碗）、丸・平瓦が出土している。25は須恵器の坏で、口径13cm、高台径9cm、器高3.5cmを測る。口縁は直線的に外反しながら立ち上がり、端部は丸い。胎土は1mm程の長石・石英を多く含む。色調は暗灰色を呈し、硬質である。高台は粘土紐の付け高台。丸瓦は、凸面は範磨き調整、凹面は未調整。側縁は範削り調整を施している。平瓦は凸面を繩目叩きの後にナデ調整、凹面はナデ調整。SK302は調査区北辺部に位置し、不整形な平面形を呈する。東西1.3m、南北1m、深さ30cmを測る。壁は弧を描きながら緩やかに立ち上がる。覆土からは青磁（皿）が出土している。SK303は調査区北辺部、SK302の東側に位置する。東西方向

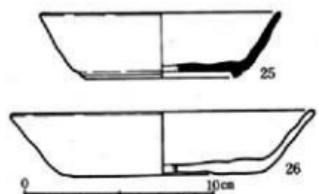


Fig.20 第3面出土遺物実測図（縮尺1/3）



Fig.21 第3面出土遺物

に長軸を有する楕円形を呈し、東西1.3m、南北0.5mを測る。壁は弧を描きながら緩やかに立ち上がる。覆土からは、土師器（环）、青磁（碗）が出土している。**26**は土師器の环である。口径17cm、底部径11cm、器高3.5cmを測る。口縁は直線的に外反しながら立ち上がり、端部は丸い。胎土は1mm程の長石・石英をわずかに含む。底部外面には糸切り痕と板目压痕が残る。

第3層出土遺物 (Fig.22~23)

第3層の黒灰色砂質土層からは、土師器（环・皿・碗・甕）、須恵器（甕・坏蓋・鋗鉢）、青磁器（碗・皿・壺）、白磁器（碗）、瓦器（椀・鉢）、石器（石鍋・砾石）、丸・平瓦、土製人型が出土している。

27~30は土師器の皿で、**27**は口径7cm、**28~30**は9cm、器高はいずれも1cm前後を測る。口縁は直線的に外反しながら立ち上がる。底部外面には糸切り痕が残る。**27**は色調が褐色を呈し、胎土には1mm程の長石・石英を多く含み、他と異なりを見せる。**31・32**は土師器の环である。**31**は口径14cm、底径9cm、器高2.5cmを測る。口縁部はやや内湾ぎみに立上り、端部は丸く仕上げている。底部外面には糸切り痕が残る。**32**は口径18cm、底径12cm、器高3cmを測る。口縁部は外反しながら直線的に立上り、端部は丸く仕上げている。底部外面には糸切り痕、板目压痕が残る。須恵器の甕は、外面に残る叩き目で2種類に分かれ。一方は平行叩き目で、他方は正格子叩き目である。内面は当具の同心円文が残る未調整か、ナデ調整。**33**は口径15.5cmを測る須恵器の蓋である。端部は下方に横ナデによりつまみだされている。外面には重ね焼き痕が残る。**34**は口径12cm、高台径8.5cm、器高4cmを測る須恵器の环である。口縁部はやや外反ぎみに直に立上り、端部は丸く仕上げている。瓦器椀は、体部は球状を呈し、口縁部はやや内湾しながら立ち上がる。内外面とも丁寧な箝磨きが施されている。焼成の具合では2種類に分かれ。一方は内面および外面の口縁部だけ黒色。他方は内外面とも黒色のものがある。高台は両者共に粘土紐の付け高台である。**35**は後者に属し、口径15cm、高台径6cm、器高5cmを測る。口縁部は直線的に外反しながら立上り、端部は丸く仕上げる。粘土紐の貼付けによる高台は断面形が三角形を呈する。鉢は口縁端部に玉縁をもつ。青磁は碗・皿・壺が出土しており、釉はオリーブ色、灰緑色、青灰色である。**36・37**は青磁の高台付の皿である。**36**は口径13cm、高台径5cm、器高3cmを測る。体下半露胎。胎は濁緑灰色で、胎土は乳灰色。内面には構造文。**37**

は口径13cm、高台5cm、器高3.5cmを測る。体下半露胎。釉は乳白色で、胎土は灰白色。高台は削りにより断面形が三角形に近い。白磁碗は破片で全形は不明だが、やや内湾ぎみに外反しながら立ち上がる。体下半露胎。釉は灰黄色～灰褐色。口縁端部に折返しの玉縁。石器は破片で全形を知りえないが、滑石製の石鏃がある。また、砂岩製の砥石も出土している。丸瓦は凸面および側縁の調整技法の違いによって2種類に分類される。一方は凸面を箆磨きし、側縁を箆削りで面取りする。他方は凸面を繩目叩き整形の後にナデを施す。平瓦は3種類に分類される。1は須恵質で硬質。凸面を繩目叩きの後ナデ調整する。凹面はナデ。側面に分割破面を残し未調整。灰色を呈する。2は厚みが1.7～2cmを測る。凸面に斜格子目叩きを残す。褐色～灰褐色を呈する。3は黒色で軟質。凹凸面とも箆磨きを施している。側縁は箆削りで面取りしている。

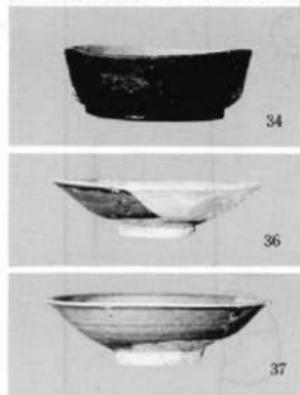


Fig.22 第3層出土遺物

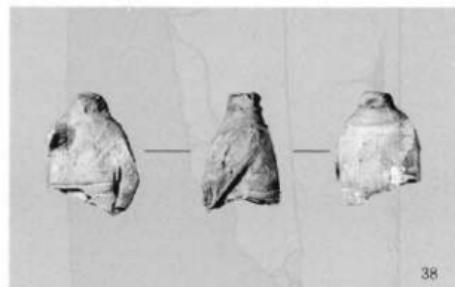


Fig.23 第3層出土遺物

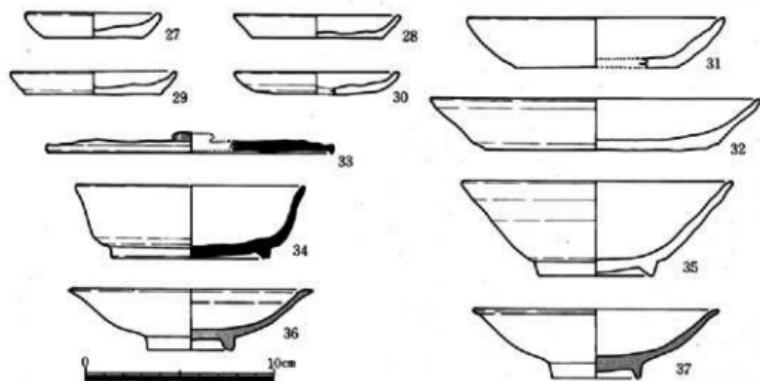


Fig.24 第3層出土遺物実測図 (縮尺1/3)

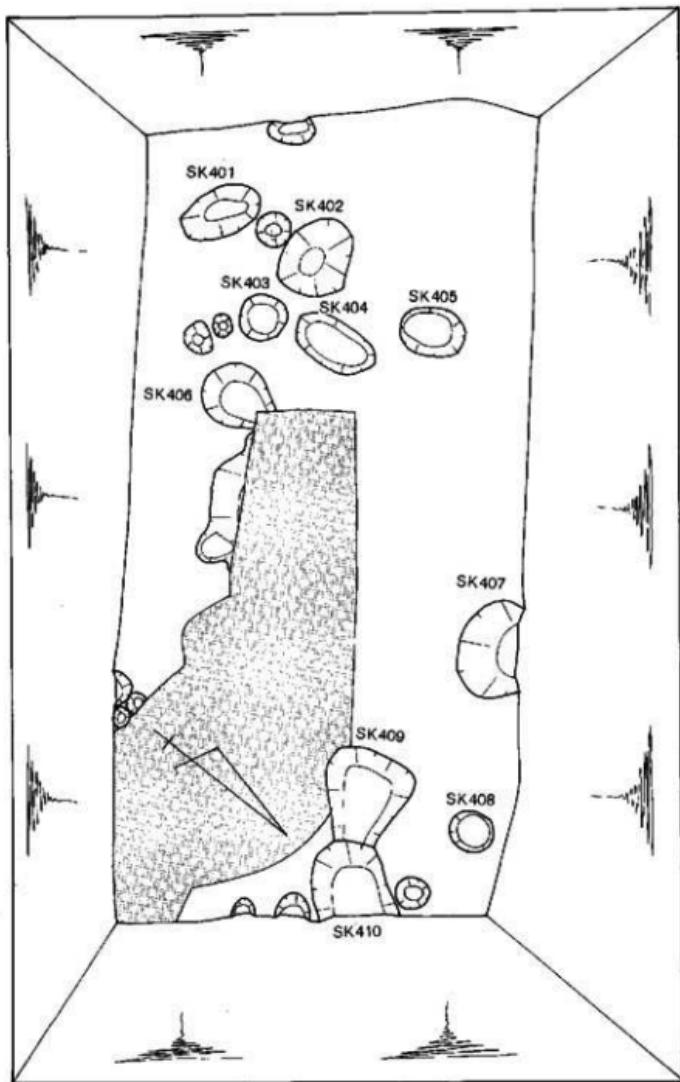


Fig.25 第4面遺構配置図 (縮尺1/30)

第4面 (Fig.25~27) 土坑 (SK)、小穴 (SP) 等を検出した。

土坑 SK401は長径70cm、短径50cm、深さ35cmを測る。覆土からは土師器皿・壺、青磁・水注が出土している。SK403は径50cm、深さ15cmを測る。覆土からは須恵器・壺が出土している。45の須恵器・壺は口径15cm、高台径10cm、器高4cmを測り、口縁部は直線的に外反しながら立ち上がる。SK405は長径70cm、短径50cm、深さ40cmを測る。覆土からは土師器・皿、須恵器・壺が出土している。40の土師器・皿は口径10cm、器高1cmを測り、口縁部は直線的に外反しながら立ち上がる。44の須恵器・壺は高台径10cmを測るが口縁部を欠く。SK406は径80cm、深さ15cmを測る。覆土からは土師器・蓋、須恵器・壺が出土している。41・42の土師器・蓋は口径20cm、器高4cmを測る。天井部は緩やかな球状を呈し、口縁端部は下方に折れ曲がる。天井部外面は箝削りの後に箠磨き調整が施され、内面は丁寧な箠磨きが施されている。褐色を呈し、焼きしまっている。46の須恵器・壺は口径18cm、高台径13cm、器高5cmを測り、口縁部は外反しながら立ち上がる。口縁端部は横ナデ調整によりやや外反する。灰褐色を呈し、焼きしまっている。

小穴 SP408は調査区東北すみに位置する。柱穴と思われる。径40cm、深さ50cmを測る。覆土からは土師器・皿が出土している。39の土師器・皿は口径9cm、器高1.5cmを測り、口縁部は直線的に外反しながら立ち上がる。

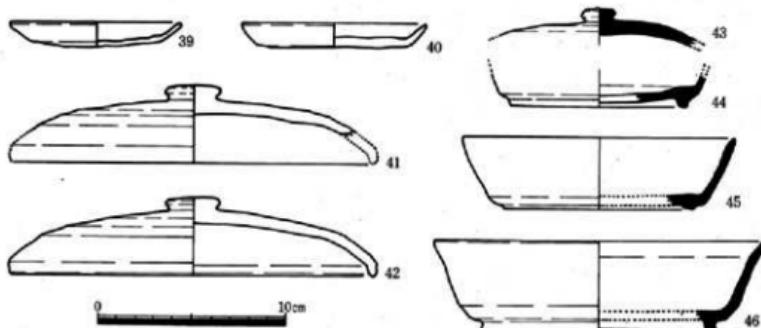


Fig.26 第4面出土遺物実測図 (縮尺1/3)

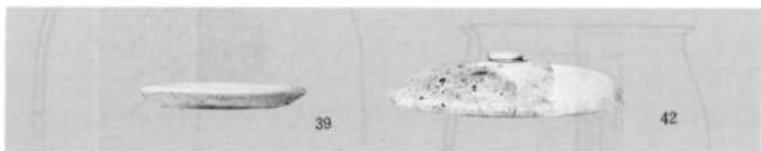


Fig.27 第4面出土遺物

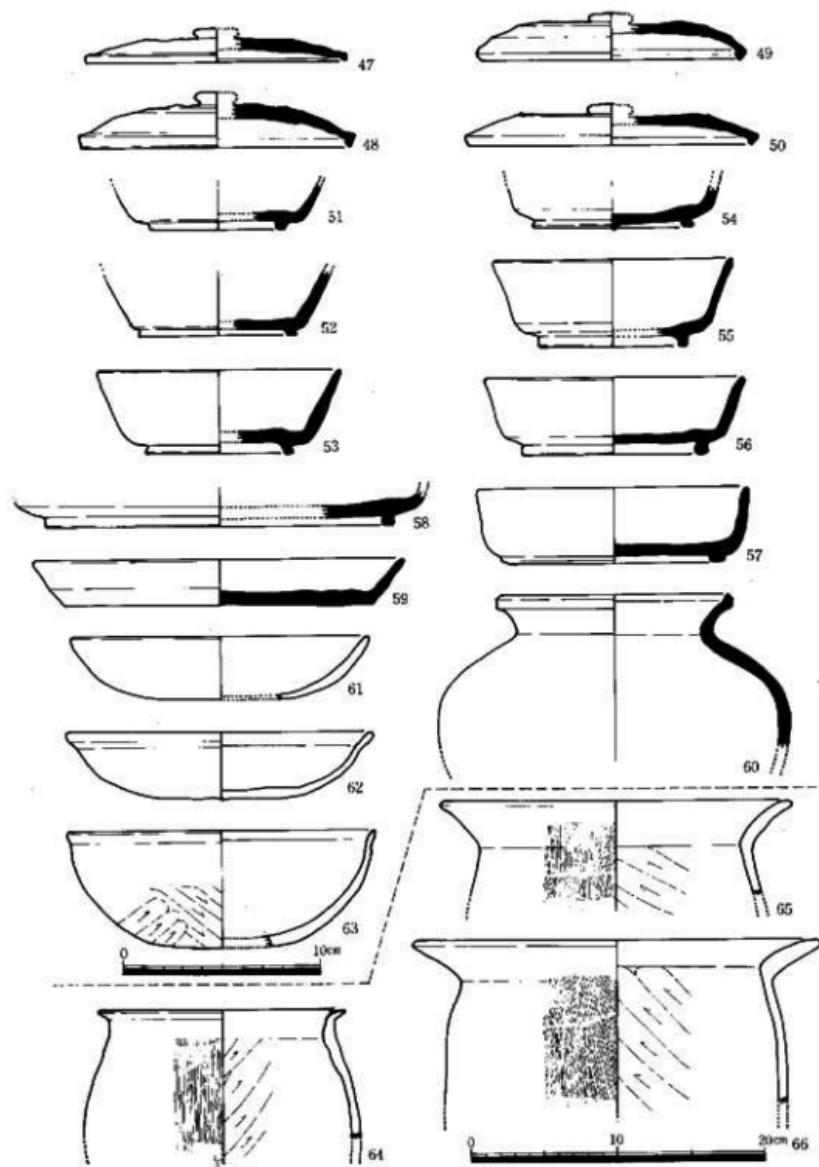


Fig.28 第4層出土遺物実測図 (縮尺1/3、1/4)

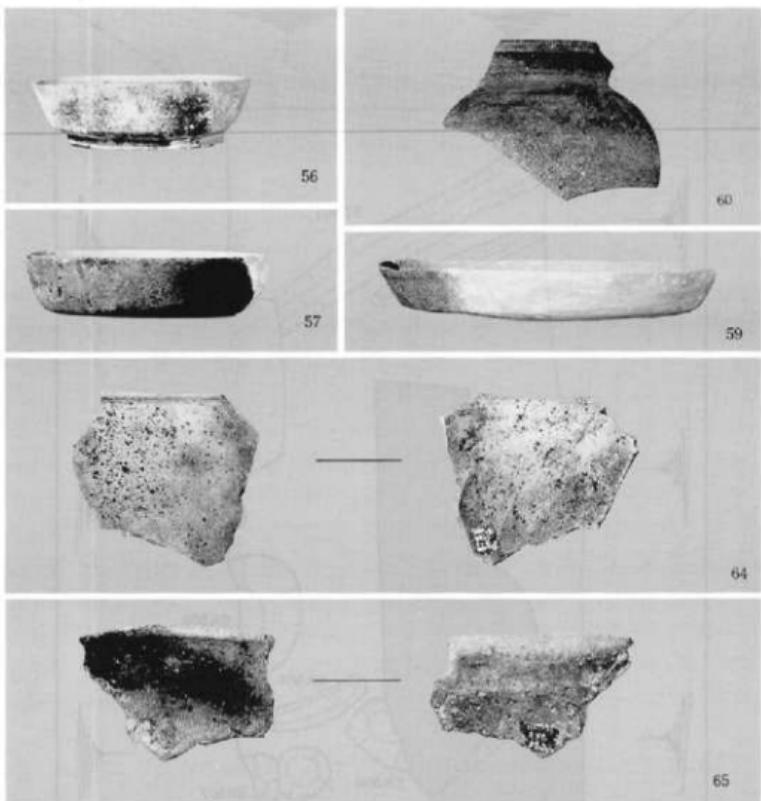


Fig.29 第4層出土遺物

第4層出土遺物 (Fig.28~29)

第4層の黒色砂層からは、土師器（皿・壺・椀・甕）、須恵器（壺・蓋・甕）、青磁器（碗）瓦器（椀）が出土している。47~50の須恵器蓋は天井部がやや丸味を有するものと平坦な群とに分かれるが、口縁部は下方に折れ、断面形は三角形を呈している。天井部外面は箆削りが施されている。51~57の須恵器壺は底部に粘土紐貼り付けの高台を有し、口縁部は直線的に外反しながら立ち上がる。64~66の土師器・甕は、口縁部は「く」の字状に外反し、口縁端部は丸味を持つ。外面は刷毛目調整、内面は箆削りが施されている。

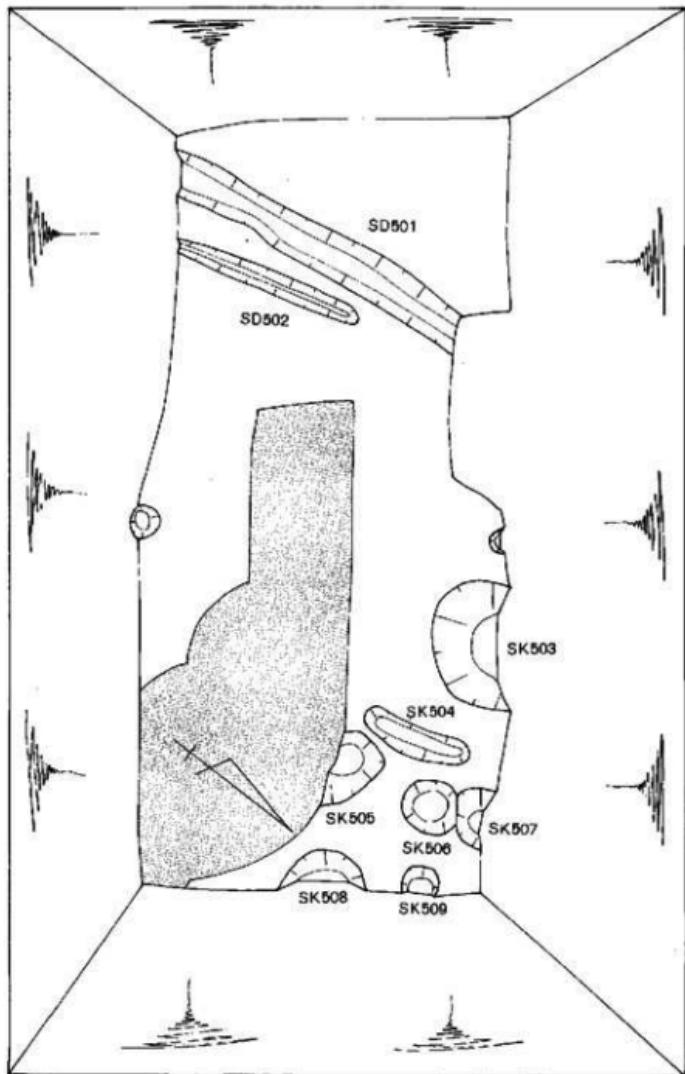


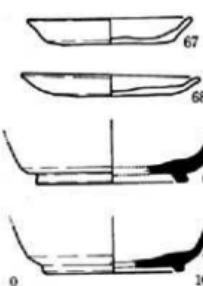
Fig.30 第5面造構配置図 (縮尺1/30)



Fig.31 第5面遺構検出状況（北東から）

第5面 (Fig.30・31) 溝 (SD)、土坑 (SK)、小穴 (SP) 等を検出した。

溝 SD501は調査区西部に位置する南北溝である。幅40cm、深さ15cmを測る。溝の南北両端は調査区外に続く。覆土より土師器・皿が出土している。67・68の土師器・皿は口径9cm、器高1cmを測り、口縁部は直線的に外反しながら立ち上がる。



土坑 SK508は調査区の東辺部に位置する。東半部は調査区外に広がる。径1m、深さ40cmを測る。覆土より須恵器・壺が出土している。70の須恵器・壺は高台径8cmを測る。

小穴 SP509は調査区の東辺部、SK508の北に位置する。径40cm、深さ40cmを測り、覆土より須恵器・壺が出土している。69の須恵器・壺は高台径8cmを測る。

Fig.32 第5面出土遺物実測図（縮尺1/3）

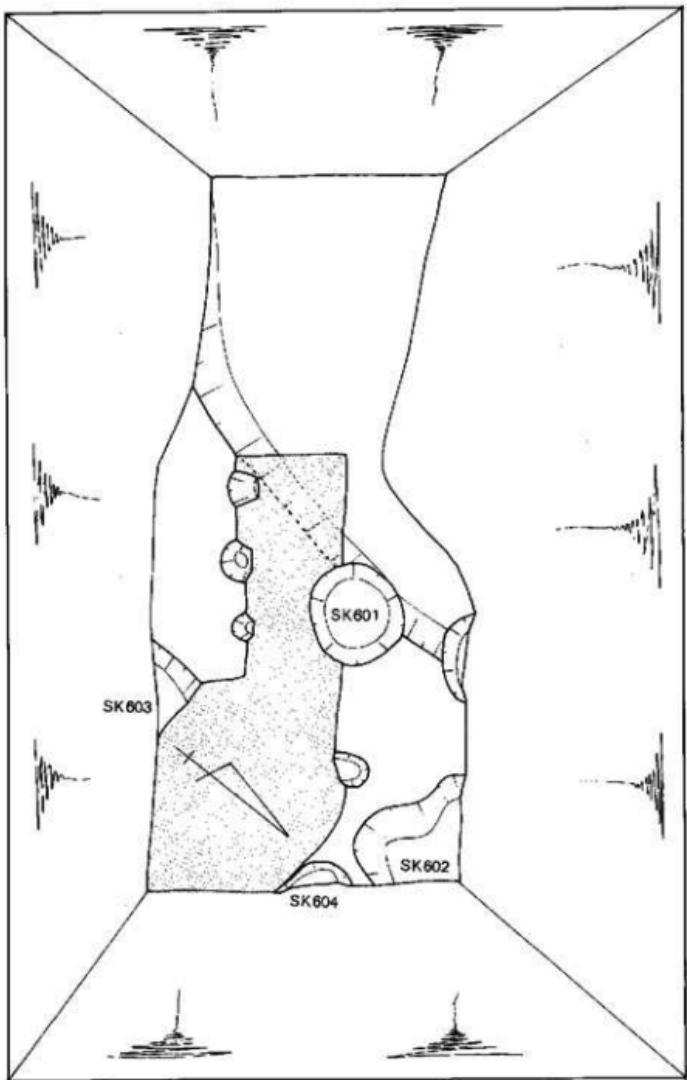


Fig.33 第6面遺構配置図 (縮尺1/30)



Fig.34 第6面遺構検出状況（北東から）

第6面 (Fig.33~37) 土坑 (SK)、小穴 (SP) 等を検出した。

調査区中央部から西半部は西に下がる斜面を呈している。この落ち込みが遺跡の立地する微高地を形成している砂丘の斜面に合致するのか、もしくは大きな溝・土坑等の遺構の一部を形成しているのかは不明である。

土坑 SK601は調査区中央に位置する。円形の平面形を呈し、径1m、深さ30cmを測る。壁は弧を描きながら緩やかに立ち上がる。覆土からは須恵器・壺・甕、土師器・壺・蓋・甕が出土している。72の須恵器・壺は口縁部を欠き、全形は不明。高台径10cmを測り、口縁部は直線的に外反しながら立ち上がると思われる。胎土には1mm程の長石・石英を多く含む。粘土紐による貼付け高台は底部と体部の変換点に施されている。土師器・甕は外面を刷毛目調整し、内面は籠割りを行なっている。SK602は調査区北辺部に位置する土坑であるが、大半は調査区外に広がる。深さ45cmを測る。壁は弧を描きながら緩やかに立ち上がる。覆土からは土師器・甕・須

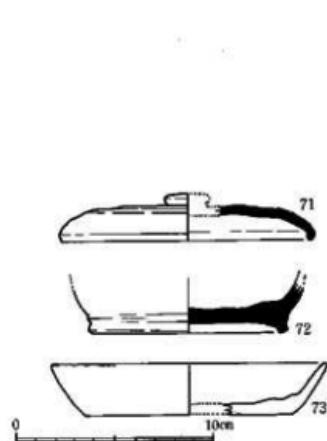


Fig.35 第6面出土遺物実測図（縮尺1/3）

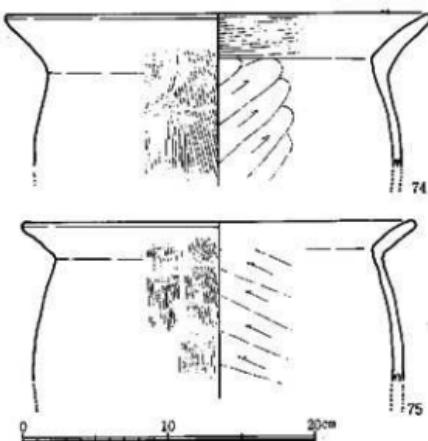


Fig.36 第6面・第6層出土遺物実測図（縮尺1/3）

恵器・壺が出土している。74の土師器・甕は底部を欠き、全形は不明。口径30cmを測る。胴部は球状を呈し、口縁は「く」の字状に外反する。外面は縱方向の刷毛目調整を行ない、内面の口縁部は刷毛目調整、胴部は箒削りが施されている。SK603は調査区南辺中央部に位置する。遺構の大半が調査区外もしくは削平されているので全形は不明。SK604は調査区東辺部、SK602の南に位置する。遺構の大半が調査区の外に広がる。深さ20cmを測る。壁は弧を描きながら緩やかに立ち上がる。覆土からは土師器・甕・壺・須恵器・蓋・甕が出土している。71の須恵器・蓋は口径13cmを測るが天井部を欠き、全形は不明。火井部外面は回転箒削り、口縁端部は下方に曲げ、端部は丸く仕上げている。73の土師器の壺は口径14cm、底径11cm、器高2.5cmを測る。口縁部は直線的に立上り、端部は丸く仕上げている。底部外面には糸切り痕が残る。

第6層出土遺物 (Fig.36~37)

第6層の暗黄褐色砂層からは、土師器（甕・壺）が出土している。甕には古墳時代初頭に比定されるものもある。75の土師器・甕は底部を欠き、全形は不明。口径27cmを測る。胴部は球状を呈し、口縁は「く」の字状に外反する。外面は縱方向の刷毛目調整を行ない、内面の口縁部は刷毛目調整、胴部は箒削りが施されている。

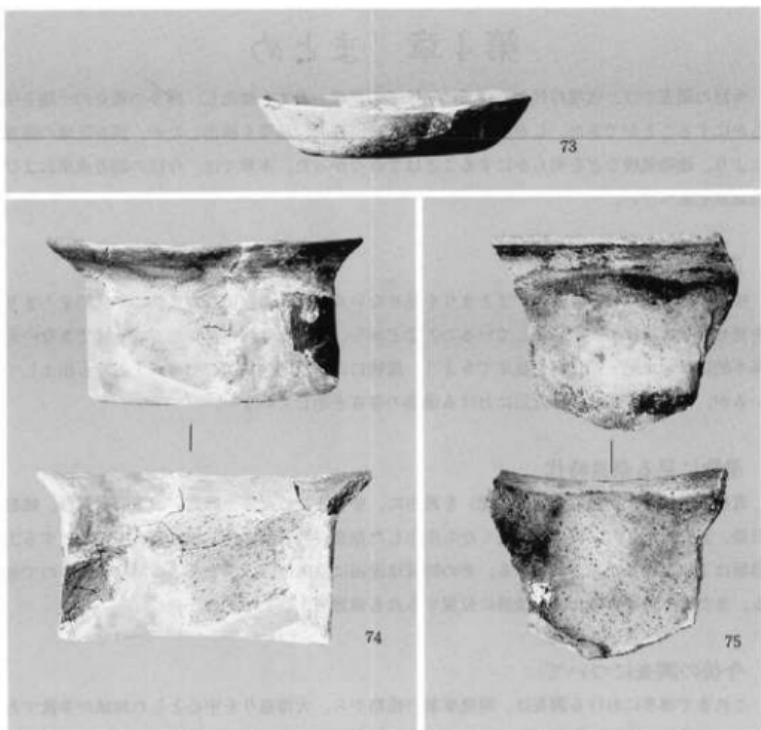


Fig.37 第6面・第6層出土遺物

第4章　まとめ

今回の調査では、古墳時代から中世にかけての遺構・遺物を検出し、博多の歴史の一端を明らかにすることができた。しかし、遺構では土坑、柱穴、溝等を検出したが、調査区域の限界により、建物規模などを明らかにすることはできなかった。本章では、今回の調査成果および問題点を述べたい。

遺構の年代

検出した各層における遺構がまとまりを見せない点、さらに出土した遺物に年代的まとまりを見せず2次堆積を強く示唆していることなどから、確実な年代を押さえることはできないが、基本的には8世紀～15世紀を提示できよう。遺物には古墳時代初頭の布留式土器片も出土しているが、器面の磨滅状態は近辺における遺構の存在を示していない。

遺物に見る奈良時代

遺物は古墳時代初頭の土師器（甕）を最古に、中世までに至る土師器、須恵器、瓦器、磁器、石器、瓦が出土した。特に下層近くから出土した奈良時代の甕、壺、楕、蓋等を代表とする上器類は丁寧な調整が施されている。その特質は近辺に官営施設の存在を強く示唆するものである。また、本地が古砂丘の丘陵部に位置する点も留意する必要があろう。

今後の調査について

これまで博多における調査は、開発事業の性格から、大博通りを中心とした地域が多数であった。今後は、本調査事例が増えていくものと思われる。これまでに発掘調査を多数実施してきたものの、調査成果が結び付いていないのも事実である。これは、近くを調査しても同様な地層を呈していない人工造成地に立地する博多遺跡群の宿命かもしれない。しかし、道路を中心とした町並みの歴史的復原を行なうためにも、さらに調査を進めることか肝要であろう。

Tab.1 博多港跡群調査地点一覧(1991年1月現在)

公共事業関係

件号	調査番号	調査原因	所在地	調査面積(㎡)	調査期間	報告者	備考
A	7725	地下鉄建設	鶴浜町	1,412	77.12~78.11	高速鉄道N・V	店塚町丁区・本体路A・B
B	7833	"	鶴浜町他	4,500	79.3~12	高速鉄道V・W	祇園町丁区・E~Q
C	7835	"	堺町・上白塚町他	200	78.11~79.5	高速鉄道 V	佐賀町丁区
D	7949	"	博多駅前1丁目他	4,500	79.12~80.8	高速鉄道 V	博多駅前1丁区
E	8037	"	上白塚町	100	81.3	高速鉄道 V	祇園町丸久店
F	8038	"	冷泉町・祇園町	435	80.10~12	高速鉄道 V	祇園町2・3号出入口
G	8148	"	引島町	70	81.9	高速鉄道 V	祇園町5号出入口
H	8149	"	祇園町	184	81.10~11	高速鉄道 V	祇園町6号出入口
I	8150	"	上白塚町・中白塚町	380	81.4~5	高速鉄道 V	佐賀町出入口
J	8435	"	博多駅前2丁目	215	84.4	高速鉄道 V	祇園町P2号出入口
K	8224	道路整備	上白塚町	630	82.11~83.3	業者 調査	豪港線第1次
L	8331	"	"	564	84.2~9	業者 調査	豪港線第2次
M	8404	"	"	417	85.1~12	業者 調査	豪港線第3次
N	8527	"	御供所町	383	85.12~86.6	業者 調査	豪港線第4次
O	8653	"	"	380	86.10~87.2	業者 V	豪港線第5次

民間事業関係

次数	調査番号	調査原因	所在地(博多区)	調査面積(㎡)	調査期間	報告者	備考
1	7810	納付空建設	鶴浜町・東友寺境内	360	78.11~79.1	本調査	
2	7928	ビル建設	店塚町	約100	79.4	企画・上層4階成	
3	7929	納付空建設	祇園町・萬代寺境内	240	79.11	本調査	
4	7930	ビル建設	冷泉町7-1	1,100	79.12~80.3	博多T・日・民地図	本調査
5	7931	"	下白塚町346		79.12	武蔵調査	
6	7932	"	冷泉町155	640	80.3~4	本調査	
7	8023	"	祇園町130	210	80.6~8	本調査	
8	8024	本堂建設	御供所町・東友寺境内	600	80.8~10	本調査	
9	8025	ビル建設	上白塚町75		80.9	武蔵調査・砕石出上	
10	8026	"	冷泉町474-9	54	80.12	博多 I	本調査
11	8027	"	御供所町3-30		80.12	武蔵調査	
12	8127	"	中白塚町152-153		81.6	武蔵調査	
13	8128	"	祇園町1121-122		81.7	トレンチ調査	
14	8129	"	店塚町4-15	255	81.8	本調査	
15	8130	駐車場建設	上白塚町569	100	81.8	武蔵調査	
16	8131	ビル建設	店塚町246~248	150	81.9	本調査	
17	8132	"	祇園2丁目1198	910	81.11~82.2	博多 III	本調査
18	8156	"	祇園2丁目118-14		82.1	武蔵調査センター(祇園町)	
19	8323	社務所建設	上川町・御田町社地内	200	83.4	本調査	
20	8324	ビル建設	祇園1丁目199	980	83.3~7	博多 III	本調査
21	8325	"	祇園2丁目1181他	150	83.5~6	博多 III	本調査
22	8327	"	冷泉町189他	840	83.9~84.2	博多 III	本調査
23	8334	本堂建設	冷泉町龍宮寺境内	約300	84.2	本調査	
24	8433	ビル建設	冷泉町1-1	250	84.4~5	博多 IV	本調査
25	8434	"	祇園町1-1	100	84.5~6	博多 V	本調査
26	8506	"	上白塚町34	134	85.5~6	博多 VI	本調査

次数	調査番号	調査原因	所在地(博多区)	調査面積(m ²)	調査期間	報告書	備考
27	8507	ビル建設	祇園町1-1	350	85.5~6	中部埋文報告日	本調査
28	8508	"	御供所町70-2	1,745	85.5~8	博多多 レ	本調査
29	8509	"	祇園町22-67	330	85.7~9	博多多 レ	本調査
30	8605	"	豊原町36-37-38-39	495	86.5~7	博多多 レ	本調査
31	8606	"	御供所町65-66	160	86.5~7	博多多 レ	本調査
32	8608	"	祇園町21-1	約1,000	86.5~7		本調査
33	8615	"	祇園町38他	898	86.7~11	博多多 レ	11本調査
34	8645	"	冷泉町238-2他	40	86.10~11		本調査
35	8648	"	上島町56	655	86.11~87.5	博多多 レ	12本調査
36	8725	"	祇園町42他	332	87.8~10	博多多 レ	本調査
37	8740	"	豊多摩前1丁目29他	1,427	87.12~88.3	博多多 レ	16本調査
38	8805	"	古屋町1-30	366	88.4~8		本調査
39	8806	"	店屋町2-3-4他	612	88.5~8	博多多 レ	14本調査
40	8833	"	久留町251他	565	88.9~12	博多多 レ	15本調査
41	8834	"	店屋町4-10	60	88.9(2H間)		本調査
42	8843	"	綱町8-25	710	88.12~89.6	博多多 レ	17本調査
43	8852	"	店屋町8-9	240	89.1~4	博多多 レ	18本調査
44	8857	"	冷泉町201-3	178	89.2~3	博多多 レ	19本調査
45	8862	納骨堂建設	祇園町4-50	248	89.3~6	博多多 レ	20本調査
46	8903	共住建設	古門戸町1	150	89.4~5		本調査
47	8911	ビル建設	祇園町390-2,393	(438)	89.4		立会
48	8915	共住建設	御供所町40他	263	89.5~8		本調査
49	8916	駐車場建設	上川端町272,273	90	89.5		本調査
50	8918	共住建設	祇園町317他	730	89.5~10	博多多 レ	21本調査
51	8925	"	祇園町154-1-2	200	89.6~7		本調査
52	8929	防水工事	豊多摩前1丁目155-1	29	89.6~7		本調査
53	8930	給油所建設	中島町154他	190	89.6~7		本調査
54	8941	店舗建設	冷泉町2丁目128-2	(99)	89.7		立会
55	8942	事業所建設	奈良尾町61-1	128	89.8~9		本調査
56	8943	疗合施設	店屋町4-1他	476	89.9~90.2		本調査
57	8947	ビル建設	祇園町557	184	89.10	博多多 レ	22本調査
58	8948	"	祇園町21-1,21-2	70	89.10	博多多 レ	23本調査
59	8957	駐車場建設	祇園町187,226	226	89.11~90.2		本調査
60	8959	ビル建設	綱町115他	730	89.11~90.5		本調査
61	8962	共住建設	古屋町182-1-5	95	89.12~90.1	博多多 レ	24本調査
62	8963	ホテル建設	御供所町195他		89.12~91.2		本調査
63	8974	共住建設	冷泉町90-3他	275	90.2~4		本調査
64	8976	ビル建設	豊多摩前1丁目101	620	90.2~7		本調査
65	9017	"	祇園町161-1	90.7~12			本調査
66	9022	"	御供所町129-1他	170	90.7~9		本調査
67	9028	共住建設	冷泉町1-6	90.8			本調査
68	9042	老人ホーム	古門戸町98-1他		90.11~91.1		本調査
69	9055	事業所建設	奈良尾町267	260	90.12~91.1		本調査
70	9062	共同住宅	冷泉町338,339,342	571	91.03~91.05		本調査
71	9111	ビル建設	御供所町235-1	600	91.05~91.10		本調査
72	9113	"	上川端町264-2	200	91.06~91.07		本調査
73	9120	事務所建設	御供所町15	76	91.08~91.09		本調査
74	9126	共同住宅	上島町131-2	140	91.09~91.10		本調査
75	9136	事務所建設	奈良尾町9-1,9-2	97	91.11~91.12		本調査
76	9137	ビル建設	上島町594	521	91.11~		本調査

博 多 28

福岡市埋蔵文化財調査報告書第283集

1992年（平成4年）3月13日 発行

編集発行 福岡市教育委員会

福岡市中央区天神1丁目8番1号

印 刷 ア ド 印 刷





Fig.33 新宿区周辺空撮写真（昭和63年）

